

オランザピン錠 2.5mg 「YD」
オランザピン錠 5mg 「YD」
オランザピン錠 10mg 「YD」

【この薬は？】

販売名	オランザピン錠 2.5mg 「YD」 OLANZAPINE TABLETS	オランザピン錠 5mg 「YD」 OLANZAPINE TABLETS	オランザピン錠 10mg 「YD」 OLANZAPINE TABLETS
一般名	オランザピン Olanzapine		
含有量 (1錠中)	2.5mg	5mg	10mg

患者向医薬品ガイドについて

患者向医薬品ガイドは、患者の皆様や家族の方などに、医療用医薬品の正しい理解と、重大な副作用の早期発見などに役立てていただくために作成したものです。

したがって、この医薬品を使用するときに特に知っていただきたいことを、医療関係者向けに作成されている添付文書を基に、わかりやすく記載しています。

医薬品の使用による重大な副作用と考えられる場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

ご不明な点などありましたら、末尾に記載の「お問い合わせ先」にお尋ねください。

さらに詳しい情報として、PMDA ホームページ「医薬品に関する情報」
<https://www.pmda.go.jp/safety/info-services/drugs/0001.html> に添付文書情報が掲載されています。

【この薬の効果は？】

- ・この薬は、精神神経用剤、制吐剤と呼ばれるグループに属する薬です。
- ・この薬は、脳内の神経伝達物質の受容体に作用してそのバランスを整えます。
- ・次の病気の人に処方されます。

○統合失調症

○双極性障害における躁症状及びうつ症状の改善

○抗悪性腫瘍剤（シスプラチン等）投与に伴う消化器症状（悪心、嘔吐）

〔統合失調症、双極性障害における躁症状及びうつ症状の改善の場合〕

- ・この薬は体調がよくなったと自己判断して服用を中止したり、量を加減したりすると病気が悪化することがあります。指示どおりに飲み続けることが重要です。

〔抗悪性腫瘍剤（シスプラチン等）投与に伴う消化器症状（悪心、嘔吐）の場合〕

- ・この薬は強い悪心、嘔吐が生じる抗悪性腫瘍剤（シスプラチン等）に使用される場合に限り服用します。

【この薬を使う前に、確認すべきことは？】

- 血糖値が著しく上昇し、糖尿病性ケトアシドーシス、糖尿病性昏睡（吐き気、甘酸っぱいにおいの息、深く大きい呼吸、意識の消失）などの重篤な状態になり、死亡にいたる可能性があるため、この薬の使用中は、血糖値の測定などがおこなわれることがあります。
- 低血糖（お腹がすく、冷汗が出る、血の気が引く、疲れやすい、手足のふるえ、けいれん、意識の低下、脱力感、刺激がないと眠ってしまうなど）があらわれることがあるため、血糖値を測定される場合があります。
- 患者や家族の方は、高血糖（体重が減る、喉が渇く、水やジュースを多く飲む、尿量が増える、尿の回数が多い）や低血糖があらわれることがあることを十分に理解できるまで説明を受けてください。これらの症状があらわれたらこの薬を飲むのをやめて、ただちに受診してください。【この薬の使用中に気をつけなければならないことは？】に書かれていることに特に注意してください。
- 次の人は、この薬を使用することはできません。
 - ・昏睡の状態にある人
 - ・バルビツール酸誘導体などの中枢神経抑制剤の強い影響下にある人
 - ・過去にオランザピン錠「YD」に含まれる成分で過敏症のあった人
 - ・アドレナリンを使用している人（アドレナリンをアナフィラキシーの救急治療、または歯科領域における浸潤麻酔もしくは伝達麻酔に使用する場合を除く）
 - ・糖尿病の人、または過去に糖尿病になったことがある人
- 次の人は、特に注意が必要です。使い始める前にそのことを医師または薬剤師に告げてください。
 - ・血縁に糖尿病の人がいる人、高血糖の人、肥満の人など糖尿病になりやすい人
 - ・尿閉、麻痺性イレウス、閉塞隅角（へいそくぐうかく）緑内障（目の充血、目のかすみ、視力の低下、視界の中に見づらい部分がある、霧がかかったような見え方、目の痛み、視野が欠けて狭くなる）の人
 - ・てんかんなどのけいれんをおこす病気のある人、または過去におこしたことがある人
 - ・この薬の代謝を遅くする要因（非喫煙、女性、高齢の人）を併せ持つ人
 - ・心臓や血管に病気のある人（心筋梗塞の人、過去に心筋梗塞をおこしたことがある人、心不全の人、心臓に伝導障害がある人など）および脳血管の病気や血圧の低下がおこりやすい状態（脱水状態、血圧降下剤による治療を受けているなど）にある人
 - ・長時間動かないでじっとしている人、長期間病床にある人、肥満の人、脱水状態の人〔肺塞栓症（胸の痛み、突然の息切れ）、静脈血栓症（下肢のむくみ・痛み）などをおこす危険がある人〕

- ・ 肝臓に障害のある人、肝臓に影響のある薬剤による治療を受けている人
- ・ 妊婦または妊娠している可能性のある人
- ・ 授乳中の人

〔双極性障害における躁症状及びうつ症状の改善の場合〕

- ・ 死にたいと行動をおこしたり、強く思ったり考えたことがある人
- ・ 脳に器質的な障害がある人
- ・ 衝撃的な行動をおこしやすい病気を合併している人

○双極性障害におけるうつ状態の人やそのご家族の方は、次の事項に注意してください。

- ・ 24歳以下で抗うつ剤を使用した場合、死んでしまいたいという気持ちを強めるという報告があります。本剤も抗うつ薬と同様に抗うつ効果を有することから、24歳以下の双極性障害におけるうつ状態の人でこの薬を使う人は医師と十分に相談してください。

○この薬には併用してはいけない薬〔アドレナリン(アナフィラキシーの救急治療、または歯科領域における浸潤麻酔もしくは伝達麻酔に使用する場合を除く)(ボスミン)] や併用を注意すべき薬があります。他の薬を使用している場合や、新たに使用する場合は、必ず医師または薬剤師に相談してください。

【この薬の使い方は？】

●使用量および回数

飲む量は、あなたの症状などにあわせて、医師が決めます。

通常、成人の飲む量および回数は次のとおりです。

〔統合失調症の場合〕

販売名	オランザピン錠 2.5mg「YD」	オランザピン錠 5mg「YD」	オランザピン錠 10mg「YD」
一回量	2～4錠より開始します。維持量として1日1回4錠ですが、8錠を超えない量で医師が決めます。	1～2錠より開始します。維持量として1日1回2錠ですが、4錠を超えない量で医師が決めます。	オランザピン錠2.5mg「YD」を2錠またはオランザピン錠5mg「YD」を1錠～オランザピン錠10mg「YD」を1錠より開始します。維持量として1日1回1錠ですが、2錠を超えない量で医師が決めます。
飲む回数	1日1回	1日1回	1日1回

〔双極性障害における躁症状の改善の場合〕

販売名	オランザピン錠 2.5mg「YD」	オランザピン錠 5mg「YD」	オランザピン錠 10mg「YD」
一回量	4錠より開始します。飲む量は、あなたの症状などにあわせて、8錠を超えない量で医師が決めます。	2錠より開始します。飲む量は、あなたの症状などにあわせて、4錠を超えない量で医師が決めます。	1錠より開始します。飲む量は、あなたの症状などにあわせて、2錠を超えない量で医師が決めます。
飲む回数	1日1回	1日1回	1日1回

〔双極性障害におけるうつ症状の改善の場合〕

販売名	オランザピン錠 2.5mg「YD」	オランザピン錠 5mg「YD」	オランザピン錠 10mg「YD」
一回量	2錠より開始します。その後、4錠に増量します。飲む量は、あなたの症状などにあわせて、8錠を超えない量で医師が決めます。	1錠より開始します。その後、2錠に増量します。飲む量は、あなたの症状などにあわせて、4錠を超えない量で医師が決めます。	オランザピン錠2.5mg「YD」を2錠またはオランザピン錠5mg「YD」を1錠より開始します。その後、オランザピン錠10mg「YD」を1錠に増量します。飲む量は、あなたの症状などにあわせて、2錠を超えない量で医師が決めます。
飲む回数	1日1回就寝前	1日1回就寝前	1日1回就寝前

〔抗悪性腫瘍剤（シスプラチン等）投与に伴う消化器症状（悪心、嘔吐）の場合〕

販売名	オランザピン錠 2.5mg「YD」	オランザピン錠 5mg「YD」	オランザピン錠 10mg「YD」
一回量	5mgを服用します。飲む量は、あなたの症状にあわせて、10mgを超えない量で医師が決めます。		
飲む回数	1日1回		

- ・この薬は、原則としてコルチコステロイド、5-HT₃受容体拮抗薬、NK₁受容体拮抗薬等と併用されます。
- ・この薬は、原則として抗悪性腫瘍剤の投与前に飲んでください。
- ・がん化学療法の各サイクルにおけるこの薬の投与期間は6日間までを目安とされます。

●どのように飲むか？

コップ1杯程度の水またはぬるま湯で飲んでください。

●飲み忘れた場合の対応

決して2回分を一度に飲まないでください。

気がついた時に、1回分を飲んでください。ただし、次の飲む時間が近い場合は

1回とばして、次の時間に1回分を飲んでください。

●多く使用した時（過量使用時）の対応

脈が速くなる、感情が激しくたかぶった状態、落ち着きがない、攻撃的になる、思うように発音できない、ろれつがまわらない、動きが遅い、眼球が上を向く、首のねじれやつっぱり、手足のふるえやこわばり、筋肉のこわばり、足がそわそわして落ち着かない、意識の低下、意識の消失などの症状があらわれる可能性があります。また、この他にせん妄（軽度の意識混濁、興奮状態）、痙攣（けいれん）（顔や手足の筋肉がぴくつく）、悪性症候群様症状（高熱、手足のふるえ）、息苦しい、血圧の上昇あるいは低下、脈の乱れ、心肺の停止などの症状があらわれる可能性もあります。いくつかの症状が同じような時期にあらわれた場合は、使用を中止し、ただちに受診してください。

【この薬の使用中に気をつけなければならないことは？】

- ・眠気、注意力・集中力・反射能力などの低下がおこることがあるので、高所での作業や自動車の運転などの危険を伴う機械の操作は行わないようにしてください。
- ・血糖値が上昇し、糖尿病性ケトアシドーシスや糖尿病性昏睡などがあらわれることがありますので、特に高血糖、肥満などの患者さんでは注意してください。高血糖や低血糖があらわれることがあるため、血糖値の測定がおこなわれることがあります。これらの症状があらわれたら、薬を飲むのをやめて、ただちに受診してください。
- ・体重が増加することがあります。体重が増加し始めた場合には、医師に相談し食事内容を改善したり、運動をするなどしてください。
- ・双極性障害におけるうつ状態の人やそのご家族の方は以下①～③の症状があらわれたら、医師に相談してください。
 - ①うつ病やうつ状態の人は死んでしまいたいと感じることがあります。この薬を飲んでいて、特に飲みはじめや飲む量を変更した時に、不安感が強くなり死にたいと思うなど症状が悪くなることがあるので、このような症状が現れた場合は、医師に相談してください。
 - ②不安になる、いらいらする、あせる、興奮しやすい、発作的にパニック状態になる、ちょっとした刺激で気持ちや体の変調を来す、敵意を持つ、攻撃的になる、衝動的に行動する、じっとしていることができない、などの症状があらわれることがあります。これらの症状があらわれた場合は、医師に相談してください。この薬との関連性は明らかではありませんが、これらの症状があらわれた人の中には、うつ症状などのもともとある病気の症状が悪化する場合や、死んでしまいたいと感じたり、他人に対して危害を加えたりする場合があります。
 - ③ご家族の方は、死にたいという気持ちになる、興奮しやすい、攻撃的になる、ちょっとした刺激で気持ちの変調を来すなど患者さんの行動の変化やうつ症状などのもともとある病気の症状が悪化する危険性について医師から十分に理解できるまで説明を受け、患者さんの状態の変化について観察し、変化がみられた場合には、医師に連絡してください。また、患者さんご自身も病状に変化があったと感じた場合には、ご家族の方にも伝えるようにしてください。

- ・妊婦または妊娠している可能性がある人は医師に相談してください。
- ・授乳している人は医師に相談してください。
- ・他の医師を受診する場合や、薬局などで他の薬を購入する場合は、必ずこの薬を飲んでいることを医師または薬剤師に伝えてください。

副作用は？

特にご注意ください重大な副作用と、それぞれの主な自覚症状を記載しました。副作用であれば、それぞれの重大な副作用ごとに記載した主な自覚症状のうち、いくつかの症状が同じような時期にあらわれることが一般的です。このような場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。


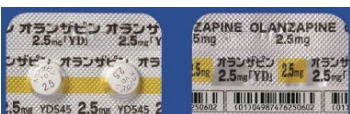



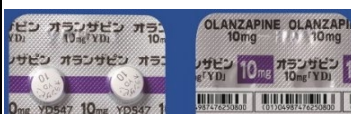
重大な副作用	主な自覚症状
糖尿病性ケトアシドーシス とうりょうびょうせいけとアシドーシス	吐き気、甘酸っぱいにおいの息、深く大きい呼吸
糖尿病性昏睡 とうりょうびょうせいこんすい	吐き気、甘酸っぱいにおいの息、深く大きい呼吸、意識の消失
高血糖 こうけつとう	体がだるい、体重が減る、喉が渇く、水を多く飲む、尿量が増える
低血糖 ていけつとう	お腹がすく、冷汗が出る、血の気が引く、疲れやすい、手足のふるえ、けいれん、意識の低下
悪性症候群（Syndrome malin） あくせいしょうこうぐん（シンドローム マリン）	高熱、汗をかく、ぼーっとする、手足のふるえ、体のこわばり、話しづらい、よだれが出る、飲み込みにくい、脈が速くなる、呼吸数が増える、血圧が上昇する
肝機能障害 かんきのうしょうがい	疲れやすい、体がだるい、力が入らない、吐き気、食欲不振
黄疸 おうだん	白目が黄色くなる、皮膚が黄色くなる、尿の色が濃くなる、体がかゆくなる
痙攣 けいれん	顔や手足の筋肉がぴくつく、一時的にぼーっとする、意識の低下、手足の筋肉が硬直しガクガクと震える
遅発性ジスキネジア ちはつせいジスキネジア	意思に反して舌を動かしたり、出し入れしたり、絶えず嚙むような口の動き、意思に反して体が動く
横紋筋融解症 おうもんきんゆうかいしょう	手足のこわばり、手足のしびれ、脱力感、筋肉の痛み、尿が赤褐色になる
麻痺性イレウス まひせいイレウス	便やおならが出にくい、吐き気、嘔吐、お腹が張る
無顆粒球症 むかりゆうきゅうしょう	突然の高熱、寒気、喉の痛み
白血球減少 はっけつきゅうげんしょう	突然の高熱、寒気、喉の痛み
肺塞栓症 はいそくせんしょう	胸の痛み、突然の息切れ
深部静脈血栓症 しんぶじょうみやくけっせんしょう	発熱、皮膚が青紫～暗紫色になる、手足の爪が青紫～暗紫色になる、唇が青紫色になる、下肢のむくみ、下肢の痛み

重大な副作用	主な自覚症状
薬剤性過敏症症候群 やくざいせいかにびんしょうしょうこうぐん	皮膚が広い範囲で赤くなる、全身性の発疹、発熱、体がだるい、リンパ節（首、わきの下、股の付け根など）のはれ

以上の自覚症状を、副作用のあらわれる部位別に並び替えると次のとおりです。これらの症状に気づいたら、重大な副作用ごとの表をご覧ください。

部位	自覚症状
全身	体がだるい、体重が減る、冷汗が出る、疲れやすい、けいれん、高熱、汗をかく、体のこわばり、力が入らない、体がかゆくなる、顔や手足の筋肉がぴくつく、意思に反して体が動く、脱力感、突然の高熱、寒気、発熱、リンパ節（首、わきの下、股の付け根など）のはれ
頭部	意識の消失、意識の低下、ぼーっとする、一時的にボーっとする
顔面	血の気が引く
眼	白目が黄色くなる
口や喉	喉が渇く、水を多く飲む、吐き気、甘酸っぱいにおいの息、話しづらい、よだれが出る、飲み込みにくい、意思に反して舌を動かしたり、出し入れしたり、絶えず嚙むような口の動き、嘔吐、喉の痛み、唇が青紫色になる
胸部	深く大きい呼吸、呼吸数が増える、胸の痛み、突然の息切れ
腹部	お腹がすく、食欲不振、お腹が張る
手・足	手足のふるえ、脈が速くなる、手足の筋肉が硬直しガクガクと震える、手足の爪が青紫～暗紫色になる、下肢のむくみ、下肢の痛み、手足のこわばり、手足のしびれ
皮膚	皮膚が黄色くなる、皮膚が青紫～暗紫色になる、皮膚が広い範囲で赤くなる、全身性の発疹
筋肉	筋肉の痛み
便	便やおならが出にくい
尿	尿量が増える、尿の色が濃くなる、尿が赤褐色になる
その他	血圧が上昇する

【この薬の形は？】

販売名	オランザピン錠 2.5mg 「YD」	オランザピン錠 5mg 「YD」	オランザピン錠 10mg 「YD」
形状	フィルムコーティング錠  PTP シート 表面 裏面 	フィルムコーティング錠  PTP シート 表面 裏面 	フィルムコーティング錠  PTP シート 表面 裏面 
直径	7.2mm	7.2mm	8.2mm
厚さ	2.9mm	2.9mm	3.7mm
重さ	124mg	124mg	204mg
色	白色	白色	白色

【この薬に含まれているのは？】

販売名	オランザピン錠 2.5mg 「YD」	オランザピン錠 5mg 「YD」	オランザピン錠 10mg 「YD」
有効成分	オランザピン		
添加物	乳糖水和物、クロスポビドン、セルロース、ヒドロキシプロピルセルロース、ステアリン酸 Mg、ヒプロメロース、酸化チタン、マクロゴール、ポリソルベート 80、カルナウバロウ		

【その他】

●この薬の保管方法は？

- ・直射日光と湿気を避けて室温（1～30℃）で保管してください。
- ・子供の手の届かないところに保管してください。

●薬が残ってしまったら？

- ・絶対に他の人に渡してはいけません。
- ・余った場合は、処分の方法について薬局や医療機関に相談してください。

【この薬についてのお問い合わせ先は？】

- ・症状、使用方法、副作用などのより詳しい質問がある場合は、主治医や薬剤師にお尋ねください。
- ・一般的な事項に関する質問は下記へお問い合わせください。

製造販売会社：株式会社陽進堂 (<https://www.yoshindo.co.jp/>)

お客様相談室

電話：0120-647-734

受付時間：9時～17時

（土、日、祝日、その他当社の休業日を除く）